

令和 5 年度（2023年度）

自己評価報告書

学校法人巨樹の会
武雄看護リハビリテーション学校
理学療法学科・看護学科

本報告書は、学校法人巨樹の会 武雄看護リハビリテーション学校の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

令和 6 年 3 月 31 日

学校長 太田 貞武

学校評価実施責任者

副学校長 磯邊 恵理子（令和 5 年度）

1. 自己評価の概要と実施状況

1)自己評価の目的、方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2)自己評価委員会委員

委員氏名	所 属
太田 貞武	武雄看護リハビリテーション学校 学校長
磯邊 恵理子	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 副学校長
岸川 圭一郎	武雄看護リハビリテーション学校 事務長
山本 裕宣	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務部長
納富 裕子	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務部長
古賀 恭子	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務主任
吉野 真紀	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務副主任
坂本 清	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務副主任
山崎 めぐみ	武雄看護リハビリテーション学校 事務係長
大宅 由紀子	武雄看護リハビリテーション学校 事務主任

3)自己評価方法

令和 5 年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目 I ～項目 X の内容について教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

1) 評価基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評価基準にて実施する。

S:十分に達成している。(達成度が高い)

A:達成している。(概ね達成しており、明らかな改善は要しない)

B:達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)

C:達成が不十分である。(不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

項目Ⅱ 学校運営

項目Ⅲ 教育活動

項目Ⅳ 学修成果

項目Ⅴ 学生支援

項目Ⅵ 教育環境

項目Ⅶ 学生の受け入れ

項目Ⅷ 財務

項目Ⅸ 法令等の遵守

項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念として「人間愛・自己実現」を定めており、人材育成像としては学校スローガン「夢叶うところ豊かな医療人になるために」を軸として、3つの心「温かい心」「思いやる心」「感謝する心」と具体的に明示している。

これらの教育方針はパンフレット、便覧、ホームページなどで広く周知徹底している。学生、保護者へも行事や通知等で目標を示すことができている。

各年度の重点目標となる教育方針は、毎年学校長より明確に提示され、教職員へ周知されているため職員が理解した上で業務することが出来ている。

課題

教育理念を公表しているものの、ホームページの見やすさに課題があるため、よりわかりやすい内容に改善していく必要がある。

改善の方策

次年度は、ホームページの全面的な見直しも行っていきたい。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通り定められている。

小項目Ⅰ-2

学校の理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: A

■コメント

ホームページの見やすさやポリシー(アドミッション・カリキュラム・ディプロマ)の周知に課題があったため、提示方法などを工夫してより分かりやすく周知できるように修正を図る必要がある。

小項目Ⅰ-3

各学科の教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: S

■コメント

両学科とも、本校の教育理念・目的・人材育成像を踏まえたカリキュラムを作成し実践している。看護学科では、昨年度カリキュラム改正を実施した。これからの看護師に求められるものを考慮して社会に貢献できる学生を育成するための教育を始めている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

毎年の教育目標について4月初めに学校長より具体的な目標提示があり、教職員へ方針が示された上でスタートしている。意思決定機能については、運営会議(月1回)や管理会議(週1回)などで、学校長から運営方針に沿った指導・助言をしていただくため、教職員の共通理解が出来る。

情報システム化については、タブレット端末による業務の効率化は図られており、グーグルドライブやグーグルホームを用いて教員会議の議題募集やアンケート集約などペーパーレス化を心掛けている。さらに紙面での回覧もWEB回覧に切り替えたり、遠方の実習学生との情報共有システムの構築なども検討していきたい。生成系AIの活用や対策は行っていない。

課題

保護者メールなどの機能は増えたが使用頻度が高いとはいえず、メール連絡をする内容の検討を行い、活用頻度を増やすことで学生・保護者とのより密な情報共有を図ることが課題としてあげられる。

改善の方策

保護者メールの使用方法を教員全体へ説明する。定型的な連絡事項は、年間スケジュールを立てて計画的に配信できるようなルールを設定しておく。

小項目Ⅱ-1

目的等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S

■コメント

今年の目標としては、就職内定や国家資格取得に向けて教職員の指導力の強化やスピード感や優先順位を持った行動が掲げられ、教職員が意識して実践した。また、学生の自主的な取り組みを促すことに加えて地域と連携したボランティア活動も推奨し実践できている。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S

■コメント

学校長を中心として指示命令系統は明確であり、各種会議にて審議を行っている。また、毎日の朝礼時や学科会議で現状を共有、把握して教職員がスピード感のある行動が取れるように運営している。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

資料なども徐々にペーパーレス化を図っているが、効率化までには至っていない。まだ改善の余地がある。

項目Ⅲ 教育活動

総括

両学科ともに学校理念や教育目標、カリキュラムに沿った体系的で組織的な教育を実施している。学生に対しては、シラバスの中で各科目の体系的な位置付けや教育方法など明確に記載できている。

新入生に対しては、学習習慣・生活習慣の確立や自主性を促し、理学療法士、看護師としてのキャリアデザインを構築して学校行事の中で学生達の自主的な行動を促し、活性化につなげていくことが出来た。

教員の資質向上については教育目標にも掲げられており、優先順位を考えながら各教員が「今、すべきことが何か」を念頭に置いて教務に取り組んだ。専門領域での教育を徹底するために、学内教員もこれまでの専門領域を深めていくことと、今後は、更なる自己研鑽に努め他の領域の内容も学習し幅を広げていく必要がある。

課題

理学療法学科では、法人のカリキュラム委員会を通して教育内容の見直しを今年も行った。しかし、教育方法の工夫、開発については継続的に取り組んでいく必要がある。

看護学科の教員間授業評価も実施できたが、評価項目の妥当性を検討する必要がある。

改善の方策

教員全体が教育理念やポリシー、カリキュラム全体像をしっかりと把握する必要がある。そのうえで常に新しい情報を取り入れながら、学生が主体的で能動的な学びをするための工夫を実践していけるよう教員間での情報共有や授業評価による自己研鑽を実施していく。

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S

■コメント

理学療法学科では法人のカリキュラム委員会を通して教育内容の見直しを今年も行った。

看護学科は地域連携の科目を通じて人間力を育むことができている。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A

■コメント

看護学科のカリキュラム改正に伴い本校の特徴を活かした理学療法学科との多職種連携授業も導入した。今後は、よりブラッシュアップしていく必要がある。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A

■コメント

評価体制は構築しているが、評価項目の妥当性や結果の活用方法を検討していく必要性はある。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S

■コメント

国家資格取得に向けて1年次から対策を図っており、学生達の性格も把握しながら3年間を見据えて、学生達の学ぶ力を育成している。今年は薬物乱用に関してのセミナーも実施した。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

学生や教員からの授業評価や学校法人の中央研修、学会参加など教育の質向上のための環境は整っている。今年度は対面の研修会も増え、法人内の研修にとどまらず外部研修にも参加することが出来た。研修後の振り返りと学生・学校への貢献に努める。

項目Ⅳ 学修成果**総括**

就職は、開校以来11年連続100%を達成できている。面接や履歴書の個別指導など細かな対応をしている。

国家試験の合格率は、理学療法学科は42名全員合格となり3年連続100%を達成することができた。看護学科は90%であるが、全国平均87.8%を上回った。不合格学生も含め次年度の支援体制を早期に検討していく。

退学率低減に対する取り組みとして、早期からの学習支援、悩みや不安を抱えている学生への個別相談、専門家によるカウンセリングなどを実施している。また、教員会議で情報共有し統一した指導になるよう留意している。しかし、理学療法学科では2名、看護学科では3名の進路変更者がでた。

在校生の社会活動(スポーツやボランティア)を把握しながら成果を表彰することもあった。

課題

退学者0を目指す。

両学科とも国家試験全員合格のために、学生に応じた学習対策とメンタルサポートを図っていく。

改善の方策

まずは教員間の意思を統一し、上記課題の達成を目指す。学生たちが全員皆勤できるような学校環境を目指す。また、次年度も卒業生の就職施設を訪問し、本校の教育に関するアンケートを収集して課題を整理し学内指導へ生かす。

小項目 Ⅳ-1

就職率の維持が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

就職希望者看護学科 39 名、理学療法学科 42 名が年内に 100%内定を達成することが出来た。より早期に希望施設への内定を獲得し、安心して国家試験対策に取り組むことができるように支援していきたい。

項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

近年は覚えるだけでは解答できず、思考力を要する問題が増加している。今年度の取り組み状況を振り返り、次年度は両学科 100%合格が達成できるように教員全体の意識を高め、学生の思考力を養っていく。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

退学率)

定着率に対する担任の意識が高まり、定着率が向上している。

看護学科:1 年生 2 名進路変更。3 年生 1 名進路変更。

理学療法学科:2 年生 1 名進路変更。2 年生 1 名進路変更。

小項目 IV-4

在校生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A

■コメント

学校生活では、学生個々に役割を設け、ボランティア活動も経験しながら、目的意識をもって自主的な生活を送ることができるように支援した。高校の部活動指導やサークル活動での活躍をした学生へは個別に表彰を行った。

小項目 IV-5

卒業生の社会的な活躍を把握し、教育活動の改善に活用されているか。

■自己評価: A

■コメント

両学科ともに卒業生が来校することが多く、その際には現状把握や情報交換を行っている。また、卒業生が就職説明会へ求人担当として来校したり、外部講師として教育活動へ協力してくれたりしている。

理学療法学科では、今年度も一部の卒業生の職場訪問を行い、施設担当者と卒業生それぞれへアンケートを実施した。その結果を教育課程編成委員会で話し合い、学内教育の課題として振り返った。

項目 V 学生支援

総括

就職活動は、学校長を含め職員全員で支援する体制をとっている。今年度も看護学科は、早期に全員就職内定となった。理学療法学科は、関連病院への就職希望者が多かったため、就職試験前の対応が集中的に必要であったが、全教員で関わることで多くの学生が内定(関連へ7割)することができた。

学生の相談窓口としては、担任を中心に定期的に面談を実施している。また、学生の変化を早期に察知し、随時保護者も交えて情報共有及び対応をしている。

障害者差別解消法の改正に伴い、次年度から合理的配慮の提供が義務化するため、規約や窓口の設置など体制の整備を進めている。

課題

求人数は多いものの希望する施設への就職が厳しくなっているため、事前選択の際に学生に応じたアドバイスが必要である。

改善の方策

2 年次末から就職説明会を導入し選択の幅を広げているが、施設の分析を行い、学生の状況と施設をマッチングさせながら支援をしていく。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

就職活動に関して、関連病院がある強みを学生達へ入学時より伝えるなど、自らのキャリアデザインについて考える機会を設けている。今年度は 2 年次に関連病院の見学を目的とした研修旅行を実施し、実習や就職に向けての意識を高めることが出来た。

最終学年に対しては、履歴書や面接の個別指導を徹底しており、細やかな指導をしながら全員の内定を取得することが出来た。看護学科は8月、理学療法学科は12月に全員の内定が決定した。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

学生の学校生活に関する悩みには、担任を中心に教務全体で早期に対応できた。しかし、教員へ相談しにくい内容など継続的なメンタルサポートに関しては、学生が直接スクールカウンセラーに相談ができるように環境が整っており、臨床心理士の方から、より専門的に学生の対応をさせていただいている。徐々に相談件数が増えてきている。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A

■コメント

保護者との連絡や支援体制は、適宜行っており、昨年に比べ保護者連絡が増え、常に連絡・相談・報告など連携を図ることが出来ている。また、看護学科は戴帽式の際に、理学療法学科は保護者説明会の際に、学内で学んだ技術を学生が保護者相手に実際に行い、学生の成長した姿を見てもらい好評を得ている。

保護者メールは、今後も利用頻度を増やしていく必要がある。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S

■コメント

高校・専門学校部会との連携も行いながら、高校生の来校、高校訪問などの際に、看護師・理学療法士の魅力について伝えることができています。新武雄病院とも連携し、職場体験会を設けている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S

■コメント

各種修学支援制度は、今年度も整備し学生が学習しやすい環境となっている。(両学科の待生制度、職業訓練給付金制度、高等学校修学支援金制度)

項目VI 教育環境

総括

授業に必要な物品の確認・導入を行っており、教育環境を随時整備している。新武雄病院と同じ医療機器を備えており、就職後も安心して医療機器を扱うことができている。図書については、学生管理のもと不明書籍なく運営出来た。

今年度は国や県の補助金を利用して情報処理室のパソコンをすべてバージョンアップし、実習後のまとめや授業で学生が快適に使用できるようになった。オンライン授業の方法も教員に定着し、スムーズに導入できるようになった。

臨床実習は概ね予定通りに実施できたが、看護学科の一部施設では感染の影響で実施できないこともあった。

課題

学校が開設され13年が経ち、様々な設備・機材の不具合(エアコンの故障や雨漏り)が生じたため、予定以上の修繕が必要となった。また学生寮の管理も必要なため、学生達へ随時寮生活や節電意識への指導も行った。

改善の方策

学内環境整備は、優先順位を考えながら行っていく。臨床実習施設も随時追加しながら充実させていく。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

授業に必要な物品の確認・導入を行っており、教育体制を随時整備している。パソコン室のパソコンやプリンターをすべて新しくし、学生たちが利用しやすいように環境を整備した。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: A

■コメント

【看護学科】

新カリキュラムによる地域看護実習の施設確保ができ、効果的な学習ができています。実習施設において指導用の参考図書を整備し指導者より感謝の言葉をもらった。

【理学療法学科】

今年度も関連病院の全面的なバックアップがあり、計画通りの実習が行われた。今後も遠方の実習施設との情報共有や学生の状況把握をもっと密に行い、すぐに対応できるようにしていきたい。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

災害時に備えて消防避難訓練を年に2回実施しているが、水害などの自然災害に対しての訓練も必要と考える。今年は、はしご車による屋上避難の訓練を実施できた。今後は、避難器具の老朽化や日祝日などの緊急時に向けて体制整備も課題である。

項目VII 学生の受け入れ、募集

総括

佐賀県職業専門部会と連携を図り、オープンキャンパスや学校説明会、高校訪問やガイダンス等で、学校状況や入試日程について積極的に情報提供している。学校説明会では、在校生がボランティアとして参加し、参加者と直接交流する環境を設定した。このように開かれた学校を意識しながら広報活動を行っている。また、部活動支援や佐賀パルナーズの協賛として地域貢献にも努めた。

長崎方面の広報やInstagramの広報を強化した。Instagramに関しては、ほぼ毎日学校生活の様子を配信し閲覧者も増加している。今年度の学校説明会・オープンキャンパス参加者数は、昨年度と比較し1割程度増加した。しかし、内訳として理学療法学科は少し増加しているものの看護学科は減少していた。

高校関係者の来校も多く、来校いただいた際は直接学校生活や実態を見学していただくようにしている。

課題

少子化に伴う学校再編や高等教育無償化、大学志向などの影響を受けている。

改善の方策

ホームページの内容見直しを図り、閲覧者へ学校の魅力をより多く伝えていく。次年度もSNSなどを活用してリアルな学校情報を伝えていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S

■コメント

例年通り、高校訪問時に対応していただいた教諭の方へ在校生の現状報告も行っている。

高校の校長先生及び教諭の方々の訪問も多く、可能な限り学内見学を通して学生の生活状況を直接見ていただくようにしている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S

■コメント

高校訪問時やガイダンス、オープンキャンパスの際に、国家試験の合格率を伝えている。またホームページやパンフレットにも資格取得や就職実績も掲載している。学内には、就職先一覧を掲示し、在校生および来校者への情報提供となっている。

項目VIII 財務

総括

定期的な会計監査が行われており、適正に管理されている。本部からの監査結果も職員全体へ周知し、全員が財務を意識して学校運営に取り組める環境にある。

財務については学生数に影響していくため、多くの学生たちが入学したいと思われる学校づくりを教職員全体で実践している。今年も佐賀県による補助金を活用させてもらうことができた。

課題

物価や光熱費が高騰化してきているため、経費節約に関する職員と学生の意識を高める必要がある。

改善の方策

教職員や寮生へ定期的に諸経費の状況を伝えながら無駄のない経費の運用に努める。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A

■コメント

毎年、総定員に対する在籍率は常に100%を維持し、財政は安定している。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S

■コメント

消耗品や光熱費の削減には努めているが、突発的な工事・修理が予算内以上にかかる事象も発生し、常に財務を意識して取り組んでいる。寮生の光熱費も定期的に管理し指導している。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載されている通り会計監査を実施しており、今後も継続していく。

項目IX 法令等の遵守

総括

法令を遵守しながら適切に学校運営を実施している。学生へも実習などを通して個人情報の取り扱いの指導を行い、医療人としての遵守事項を周知している。障害のある学生に対する配慮事項についても規程を設け、職員全体への説明会にて周知を図った。

課題

成人年齢の引き下げに伴い、詐欺防止指導なども強化していく必要がある。

改善の方策

守秘義務や情報リテラシーについて1年次より定期的に説明を行っていく。

引き続き注意喚起を図り、リスク管理に努めて欲しい。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S

■コメント

法令や設置基準を遵守しており、今後も継続する。新たに設けた規程なども勉強会を実施しながら運用している。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: A

■コメント

学校内の情報も漏洩がないように、常に学校長からも職員への周知徹底がなされている。SNS利用時も学生個人が特定されないような対応を実施している。

項目X 社会貢献・地域貢献

総括

地域の要請に応じて施設貸し出し協力を行い、開かれた学校づくりをすることが出来た。

ボランティア活動への促しを今年度の目標の一つとして掲げ、学生が地域貢献、社会貢献通じて人間性を身につけられる様に参加意欲を高めた。その結果、多くの学生がボランティアへ参加した。学生からも「引き続き参加していきたい」と前向きな声が聞かれ、その後の社会貢献にも繋がっている。

学内行事では、オープンキャンパスなど1年次から積極的にボランティア活動へ多くの学生が参加協力してくれた。学生はボランティア協力していく重要性を認識しているようである。

課題

ボランティア活動への参加は積極的に実施できたが、近隣からマナーについて苦情が入ったこともあるため、社会貢献はボランティアだけでなくことを学生に理解させる必要がある。

改善の方策

次年度の2024全国障害者スポーツ大会でも協力校となっているため、ボランティア準備を進めていく。また、日頃より地域連携の大切さを伝えていく。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: S

■コメント

今年度も地域の要請に応じて受け入れを行った。高校の模擬試験会場、高校入試会場、新武雄病院研修、佐賀県理学療法士会の研修などへ協力し、施設を活用してもらった。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: S

■コメント

両学科とも講義の一環として地域連携活動も実践し、高齢者や障害のある方々との交流も深めることが出来た。

地域清掃活動や献血、武雄市の地域討議会や地域実践研究セミナー、日本パラ水泳補助員、社会福祉協議会のボランティアなどに学生が参加し、奉仕精神や地域貢献の精神を養うことができた。